原著論文 (Research Article)（または 短報Note，報告 Report，総説 Review）

 陸水物理学会誌・投稿用フォーマット

田沢太郎1)・摩周花子2), †

**Template for submission to J. JSPH**

Taro TAZAWA1) and Hanako MASHU2), †

摘要　摘要は300字以内で，何を目的に，どのような手法で，何を行い，どのような結果が得られたのかを具体的にまとめてください。フォントはMS明朝の10 ptですが，数値とSI単位はTimes New Romanの10ptでお願いします。摘要では図や参考文献を引用できません。摘要のみで独立に存在しえるようにお書き下さい。キーワードは５語以内を選んでご記入下さい。

キーワード 陸水物理学会誌，原稿，フォーマット，査読，印刷

**Abstract**　 This template provides a format for those who are preparing their submission to Journal of the Japanese Society of Physical Hydrology (JJSPH). The number of pages can be approximately estimated using this template, but it does not always show the exact printing page. The template can be used throughout the first submission, the revised one and the accepted version. Please note that the final version for your manuscript should be prepared in accordance with the different format suitable for the printing process. The English abstract should be less than 200 words. Font is Times New Roman with 10pt size.

**Keywords** Journal of the Japanese Society of Physical Hydrology, Manuscript, Format, Review, Printing

1. はじめに

このたびは，陸水物理学会誌への投稿をご検討くださりありがとうございます。これは投稿用テンプレートです。このテンプレートは，陸水物理学会誌に原著論文，短報，報告，総説を投稿する際に利用いただくものです。初回投稿時および査読後の修正原稿の提出に使うことを目的に，A4版であることを除いては字数などが最終的な刷り上りに近いようになっています。このテンプレートを利用することにより，おおよその刷り上りページ数が予測できます。本文の字体はMS明朝で大きさは10.5ptです。なお，最終的な刷り上りとは誤差が出ることをご了承下さい。このフォーマットをご利用前に投稿規定を必ずお読み下さい。この要旨は段抜き1行当り48文字です。査読が終了し，採録可となった後もこのフォーマットが利用されます。また，このフォーマットによって作成した原稿はA4版で，ほぼ等しくなるように設定されています。したがって，およその刷り上りページ数を見積もることが可能ですが，実際の刷り上り原稿ではページ数に誤差が出る可能性があることをご了承下さい。また，最終稿では図表の配置なども変わります。以上のことをご了解の上，このフォーマットをご利用下さい。

2. 原稿作成上の注意

このフォーマットを利用する前に投稿規定も必ずお読み下さい。ここでは，書式や原稿作成上の要点についてまとめます。また，実際の学会誌にすでに掲載されている論文もご覧になり書式を参考になさってください。投稿時は，このテンプレートに従って書いたWordファイルとpdfファイルの両方をメールに添付し，投稿表と共に編集委員会に送ってください。

2.1. 題名と著者名

\*1 ○×大学\*\*学部　〒000-0000　東京都＊＊区一番町＊＊ Department of \*\*, \*\* University, Tokyo, 000-0000

\*2 △□大学大学院理学研究科　〒000-0000　札幌市北区＊＊条＊＊丁目 Graduate School of Science, \*\* University, Sapporo, 000-0000

 †現在，㈱＊＊陸水物理学部門 〒000-0000　大阪府＊＊区一番町＊＊　＊＊ Co., Ltd, Osaka, 000-0000

題名はできるだけ簡潔に，和文40字以内，英文10文字以内でお願いします。「○○○の研究

第○報」のような題名は避け，論文としての独立性に留意してください。副題もできるだけ避けてください。また，略号は原則として使用しないで下さい。

投稿原稿の著者名は個人名とし，団体名等の使用は認めません。また，投稿後の著者名の変更は原則として認められないので，慎重を期してください。

左上には原稿の種別を記してください｡

2.2. 摘要

和文摘要は300字以内で，何を目的に，どのような手法で，何を行い，どのような結果が得られたのかを具体的にまとめてください。フォントはMS明朝10ptでお願いします。摘要の中で図や参考文献を引用できません。要旨のみで独立に存在しえるようにお書き下さい。キーワードは５語以内を選んでご記入下さい。英文摘要はTimes New Romanの10ptで，200語以内でお願いします。英語のキーワードは和文に準じます。

2.3. 本文

テンプレート上の本文は2段組で，片段21字，48行です。字のサイズは10.5ptです．査読後の最終稿が受理され校正の段階に入った段階では，行番号はなくなり，片段24字，48行になります。

章の表題に通し番号をつけてください。脚注は使わないでください。

数式と文字の使用については投稿規定と執筆要領をご覧下さい。

2.4. 図・写真と表

図や写真の説明文は，**図1.**（英語では**Fig. 1.**）のように記し，このフォーマット中に刷り上りに近い形を想定して，適当と思われる位置に貼り付けてください。写真は図として扱ってください｡本文中での図表の引用は，Fig. 1, Table 1などと記してください。図表の説明文は英語と日本語の両方でお願いします。字の大きさは共に10ptです．

図・写真は，白黒とカラーの両方を受け付けます。白黒の場合は判別ができるような図を作成してください。

その他，図，表の作成については投稿規定と執筆要領をお読み下さい。なお，ご存知のように，一般の表作成ソフトなどの初期設定は必ずしも科学技術論文の図や表の作成には適していない

**図1.**　図の例（図中の説明は英文でお願いします）．字のサイズは和文と英文共に10ptです．

**Fig. 1.** Sample of illustration.

**表1.** 表のサンプル（画像ではなく，字体や大きさが変更できる表にする）．説明文の字のサイズは和文と英文共に10ptです．

**Table 1.** Sample of a table.

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Temperature (℃) | Density(kg m-3) | Dynamic viscosity(Pa・s) |
| 05 1015202530 | 999.84999.96999.70999.10998.20997.04995.65 | 0.0017920.0015200.0013070.0011380.0010020.0008900.000797 |

ことが多いので，縦軸，横軸の目盛り，文字の大きさやフォント，線やプロット点の種類や大きさの選択は十分吟味して行なってください。

2.5. 式と単位の表示

 式の表示は，下記の例のようにWord文書の「挿入」から「数式エディタ」を使用し，編集が可能な状態で表示してください。

　 $A=πr^{2}$　　　　　　 　　(1)

　物理量の単位はSI単位を用い，m s-1, J kg-1 K-1のように指数表示で統一してください。図表の中で用いる場合も同様の表示でお願いします。

2.6. 参考文献

参考文献は，本文での引用順に[1], {2-4}ように番号で記してください。参考文献は論文等の中で重要な意味を持ちます。十分に検討して参考文献リストを作成してください。書式は投稿規定を参照していただきますが，読者が実際に読むことができる文献を引用することが重要です。このことは，一般からはアクセスしにくいレポート，継続性が低いwebサイトなどの引用は避けたほうがよいことを意味します。ただし，先行研究のプライオリティを重視するためにこのような文献や私信を引用することもあり得ると思います。ただし，その場合には読者が実際にその文献を読めないことを考えて，その内容を本文中に簡潔に示した上で引用することが必要です。

**図2.** 大きな図の例.

**Fig. 2.** Sample of large illustration.

3. 査読について

査読は，陸水物理学会が定める査読基準に照らして投稿原稿が掲載可能かどうかを判断するもので，独創性，新規性，有効性などが判断の対象となります。学会誌に掲載される論文等は多少分野を異にする読者でも内容を理解できるように書かれていることが必要と考えます。したがって，新規性や有効性といった論文等の価値についても，先行研究等との差異を記述することで明確にする必要があります。すなわち，分野外の読者にもその研究の新規性と有効性の所在が明らかになるように書く必要があります。その上で，内容の信頼性や書式の体裁などが要求されます。

陸水物理学会では，査読は原則として2回までとなっており，1回目の査読で示された採録の条件が修正原稿で満たされていないと判断された場合はいったん返戻となります。この場合は，十分修正の上，再投稿をしていただくことになります。再投稿の際には初回投稿時の受付番号を付記し，初回投稿時とある程度継続性をもった査読過程を編集委員会で設定することが可能なようになっております。内容的に価値のある原稿でも，大幅な修正が必要と考えられる場合はいったんお返しとすることがあります。この場合は，研究内容の価値を必ずしも否定するものではないことをご理解ください。査読は論文の書き方の指導を行なうものではなく，論理展開などが査読基準を満たすかを判断するもので，それを満たす原稿は積極的に採録したいと編集委員会では考えております。論文の真の価値は学会誌に掲載された上で読者が判断するものであるといえます。

4. まとめ

この投稿フォームを利用することで論文等の作成・投稿が容易になり，さらに査読過程も円滑に進み，優れた研究内容がより早く学会誌上に現れるようになることを編集委員会では願っております。このフォームの改善に関するご意見がありましたら，ぜひ学会事務局までお知らせ下さい。

参考文献

1. 福富孝治・中尾欣四郎・三好日出夫・田上龍一 (1968): 登別温泉大湯沼の水収支および熱収支．北海道大学地球物理学研究報告 **19**: 1-19.
2. 斎藤錬一・奥田節夫・斎藤亮平 (1973): 集中豪雨―新しい災害と防災.日本放送出版協会, 290pp.
3. 岡山太郎 (2018): 山間河川の水温を決める環境因子に関する研究．\*\*\*\*大学大学院農学研究科修士論文，\*\* pp.
4. Author 1 AB, Author 2 CD (2010): Title of the article. *Journal Name* **Volume**: page range, DOI.
5. Author 1 A, Author 2 B (1999): Title of the chapter. In *Book Title*, 2nd ed., Chapter No., Editor 1 A, Editor 2 B, eds., Publisher, Publisher location, Country, Volume 3, pp. 154–196, ISBN.
6. Author 1 A, Author 2 B (2000): *Book Title*, 3rd ed., Publisher, Publisher Location, Country, \*\*\*pp., ISBN.
7. Author 1 AB (2005): Title of the thesis. Level of the thesis, Degree-granting university, Location of university, total page.